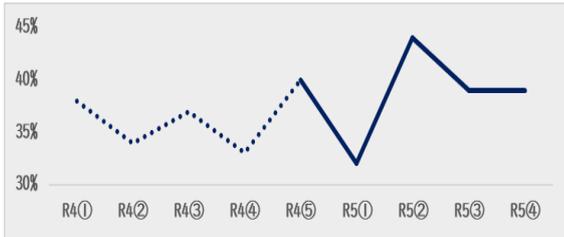




学校を開き，生徒の未来を拓く

□ 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」を通じて個のつながり方を考える

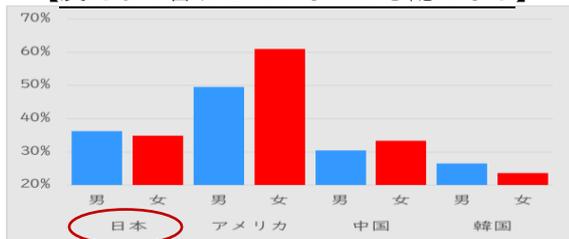
2月22日(木)に行われました「ふゆうの会」では、3年生が後輩や教職員に実に素敵な合唱を披露してくれました。これは、3年生の一人ひとりが、合唱を創り上げるという一つの目的を通して、力強くつながった結果によるものだと考えています。



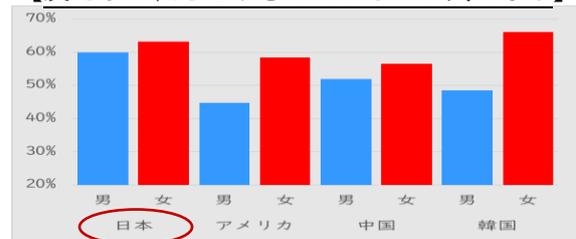
左のグラフは、問い「自分と違う意見について考えるのは楽しい」について、昨年度から今年度にかけて9回調査をした結果です。「楽しい」と回答する生徒は40%前後を行き来し、なかなか上昇していきません。日本人は自分の行動を決める時に、よく集団主義的で同調行動を選択されるとされており、本校の生徒も同じ傾向なのかもしれません。

他方で少し古いデータとなりますが、国立青少年教育振興機構による「平成29年度 高校生の心と体の健康に関する意識調査—日本・米国・中国・韓国の比較」(下記グラフ)の結果をご覧ください。

【友だちに合わせていないと心配になる】



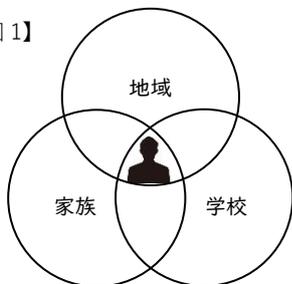
【友だちが私をどう思っているのか気になる】



自己主張が強いと思われるアメリカの若者が、意外なことに友だちとの同調を最も気にしており、日本の若者の値はそれほど高くありません。一方で、他人からの目を一番気にするのは日本の若者です。要するに、日本の若者(日本人)は、皆と一緒に大切なのではなく、自分の行動が他人からどのように見られているかを気にしているのです。それが日本人の同調行動の源なのかもしれません。「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答する本校の生徒の値が増加しないも、同様の理由かもしれません。

かつて私たち日本人は、多様なコミュニティに所属する一員(図1)として日常生活を送っていました。学校や家庭、地域が所属の安心を得られる場所であったように思います。ですから、そこでの安心感を得るためには、同じコミュニティに所属する他の人からどのように見られているのかが、大切な価値観だったのかもしれません。

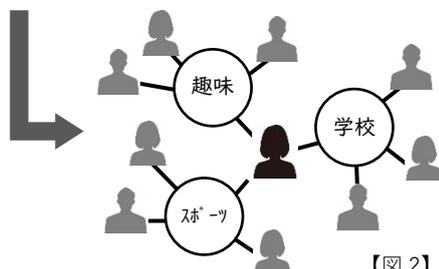
【図1】



しかし、これからの時代は、個人と個人がさまざまなことを媒体にして緩やかにつながって関係を築いていく(図2)ことになると予想します。人との関係を、自らの行動によって築き上げる時代になっていくと言うことです。

だからこそ、多様な考えをもつ人との関係の中で、自分の考えを力強く伝えていく力が大切になると考えています。すなわち、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じられる人になりたいと言うことです。

来年度、巢南中学校では「朝の会」や「帰りの会」を「短学活」と名称を変更し内容もリニューアルします。この「短学活」では、生徒が自分の考えを発信する場をたくさん確保しようと計画をしています。



【図2】